GRANPOWER5000 ES200

B1FH－A584－01

GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server タイプへの補足事項

お願い：梱包物開封後、最初に本書をお読み下さい

このたびは、弊社の「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server タイプ」をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本書では、

- GRANPOWER5000 ES200で「Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版」をご利用になる際の留意事項
- 「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server タイプ」に添付されている各種ドキュメントに対する＜Windows® 2000 Server＞向け補足事項

について説明しております。
本書をお読みになる際には、下記ドキュメント（サーバ本体添付）とあわせて御覧いただきますようお願い致します。

『GRANPOWER5000 ES200 取扱説明書』
『GRANPOWER5000 ES200 ハードウェアセットアップガイド』
（以降、本書では、それぞれ、
「取扱説明書」
「ハードウェアセットアップガイド」
と表記します）

本ドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれている事が有ります。特定技術が含まれている場合は、本ドキュメントを輸出または非居住者に提供する際に同法に基づく許可が必要となります。

2000年3月 富士通株式会社

－ 目 次 －

第一部 「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server タイプ」基本情報 3
　１．梱包物一覧 3

第二部 Windows® 2000 Server タイプ使用時のシステム構築／運用に関する留意事項 4
　１．サーバ本体、および内蔵／周辺オプション装置に関する留意事項 4
　２．ソフトウェアインストール手順に関する留意事項 4
　３．OS インストールに関する留意事項 4
　４．ACPI 機能に関する留意事項 4

第三部 Windows® 2000 Server タイプの各装置に関する留意／制限事項 6
　１．サーバ本体標準添付 CD-ROM「ServerWizard-CD」に関する制限事項 6
　２．アレイコントローラカードに関する制限事項事項 6
　３．無停電電源装置(UPS)に関する制限事項 6
　４．外付け FAX モデム装置(FMFX-511/411)に関する留意事項 6

第四部 Windows® 2000 Server タイプ使用時のサーバ本体添付ドキュメントへの補足事項 7
　１．アレイコントローラカードに関する記述について 7
　２．「Intel LANDesk® Server Manager」および「Servervisor」の記述について 7
　３．OS インストールに関する記述について 7
　４．内蔵／周辺オプション装置のサポートについて 7

第五部 Windows ®2000 Server タイプ使用時のメモリダンプの取得 8
　１．メモリダンプファイルの種類 8
　２．メモリダンプを取得するための設定方法 8
　３．メモリダンプの取得に必要なブートボリュームサイズ 9
　４．メモリダンプが取得できないとき 9

第一部　「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server タイプ」基本情報

1．梱包物一覧

Windows® 2000 Server タイプは以下の製品で構成されます。
万一、欠品などがございましたら、担当営業員までお申しつけ下さい。

ﾀｲﾌﾟ	名称	数量	備考
ES200 共通添付品	本体装置	1	
	ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ	1	OADG（109 ｷｰ）
	ﾏｳｽ	1	
	電源ｹｰﾌﾞﾙ（本体装置用）	1	AC 電源ｹｰﾌﾞﾙ
	ｱﾀﾞﾌﾟﾀﾌﾟﾗｸﾞ	1	電源ｺﾈｸﾀ変換用
	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ「取扱説明書」	1	
	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ「ﾊｰﾄﾞｳｪｱｾｯﾄｱｯﾌﾟｶﾞｲﾄﾞ」	1	
	BIOS Environment Support Tools	1 枚	3．5 ｲﾝﾁ FPD
	ﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸｱｸｾｽﾗﾝﾌﾟ点灯ｹｰﾌﾞﾙ	1 本	ｱﾚｲｼｽﾃﾑ構成時使用
	5 ｲﾝﾁ内蔵ｵﾌﾟｼｮﾝ用ﾐﾘﾈｼﾞ	8 個	
	ﾘｽﾄｽﾄﾗｯﾌﾟ	1	作業前に必要
	ﾗﾍﾞﾙ	1 式	5 枚一組×2
	保証書	1	
Windows® 2000 Server ﾀｲﾌﾟ用	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ 「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 設定の手引き」	1	
	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ 「GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server ﾀｲﾌﾟへの補足事項」	1	本書
	Windows® 2000 Server ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ媒体	1 式	
	ServerWizard-CD	1 式	- CD-ROM1 枚 - ﾌﾛｯﾋﾟｨﾃﾞｨｽｸ１枚 - GRANPOWER5000 ｼﾘｰｽﾞ ｿﾌﾄｳｪｱｶﾞｲﾄﾞ
	ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ 「WindowsNT をｲﾝｽﾄｰﾙしよう！」	1	NT/2000 共通

第二部 Windows® 2000 Server タイプ使用時のシステム構築／運用に関する留意事項

ここでは、Windows® 2000 Server でシステム構築、およびシステム運用する場合の＜留意事項＞について説明します。
＜OS インストール＞および＜周辺 I/O 装置の増設＞を行う場合、またはシステム運用を開始する前には、必ず以下の＜留意事項＞を一読して下さい。

1．サーバ本体、および内蔵／周辺オプション装置に関する留意事項

「第三部 Windows® 2000 Server タイプの各装置に関する留意／制限事項」を参照して下さい。

2．ソフトウェアインストール手順に関する留意事項

［OS インストール］

- ServerWizard を利用してインストールを行う場合
  → 別冊『GRANPOWER5000 シリーズ ソフトウェアガイド』(ServerWizard CD 添付)に従ってインストールを実施して下さい。
- マニュアルインストールを行う場合
  → ドキュメント『ファーストステップガイド』(Windows® 2000 Server バックアップ媒体添付)に従ってインストールを実施して下さい。

[その他のソフトウェア（ドライバ等）]

周辺装置を使用する場合、「装置専用ソフト(ドライバ等)」をインストールしなければならないことがあります。
このような場合は、以下のいずれかのドキュメントを参照し、指示に従って必要なソフトウェアのインストールを実施して下さい。

- 各周辺装置添付の取扱説明書
- GRANPOWER5000 シリーズ ソフトウェアガイド

3．OS インストールに関する留意事項

- **ブートＯＳ は、必ず内蔵ハードディスクユニットにインストール**してください。
- OS をインストールする区画サイズには、**メモリダンプの取得に必要な空き容量を考慮する必要があります**。
  詳細は「第五部 Windows® 2000 Server タイプ使用時のメモリダンプの取得」を参照して下さい。

4．ACPI 機能に関する留意事項

＜各 ACPI モードにおける電源ボタン押下時の動作について＞

GARNPOWER5000 シリーズでサポートしている ACPI モードには、“電源オフ”／”スタンバイ”／
”休止状態”の３モードがあります。
各モードの設定は、［コントロールパネル］－［電源オプション］内の［詳細］タブで行います。
［詳細タブ］内の［電源ボタン］で希望するモードを設定して下さい。
なお、設定されたモード毎に、ES200 の電源ボタン押下時の動作が異なりますのでご注意下さい。

＜オプション品の ACPI 対応について＞

拡張カード、周辺機器等のオプション品は使用する ACPI モードに対応している必要があります。
ACPI モードに対応していないオプション品を接続すると、オプション品が使用できないだけではなく、スタンバイや休止状態へ移行出来なかったり、復帰出来ない、復帰できても正常に動作しない等の問題が発生することがあります。

＜動作中の強制スタンバイ・休止について＞

下記の様な動作中は、電源ボタンの押下や[スタート]-[シャットダウン]メニューから強制的にスタンバイや休止状態へ移行させないで下さい。
スタンバイや休止状態へ移行出来なかったり、復帰後正常動作しない、データが消失する等の問題が発生することがあります。

- Windows® 2000 Server の起動中／シャットダウン処理中
- ファイルアクセス中(フロッピーディスク，ハードディスク，CD-ROM ドライブや MO ドライブのアクセスランプ点灯中)
- サウンドや動画の再生中(MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイル再生中や音楽 CD の再生中)
- モデムやネットワーク環境で通信中／共有ファイルを操作中
- ACPI モードに対応していないオプション機器(拡張カード、周辺機器)を増設している場合
- 省電力(ACPI)機能に対応していない通信アプリケーションソフトを使用中

＜BIOS セットアップの省電力設定について＞

サーバ本体の BIOS セットアップの省電力に関する設定は、ACPI モード運用では無効になります。

第三部 Windows® 2000 Server タイプの各装置に関する留意／制限事項

ここでは、GRANPOWER5000 ES200 Windows® 2000 Server ﾀｲﾌﾟ における本体装置、および内蔵／周辺 I/O 装置に関する制限事項ついて説明します。
最新情報については、下記 URL 先の当社公開中ホームページにおいて確認できます。
システム運用を開始する前に、制限事項の最新情報を必ず確認して下さい。
（URL を参照できない場合は、担当営業へお問い合わせ下さい）

[当社ホームページ URL]

- GRANPOWER OPEN WORLD
  http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/granpower/gp5/index.html

１．サーバ本体標準添付 CD-ROM「ServerWizard-CD」に関する制限事項

Windows® 2000 Server-OS インストール時に使用する<ServerWizard >を除いて、**サーバ本体に標準添付されている CD-ROM 「ServerWizard-CD 」に組み込まれている機能を使用することはできません**。

[制限事項]

Windows® 2000 Server タイプでは、**以下の機能は使用できません（制限事項）**。

- **サーバ監視ソフト「LDSM 」および「Servervisor 」（リモートメンテナンスも含む）**
- **電源切断用HAL**

[お知らせ]

Windows®2000 Server 対応版「Intel LANDesk ® Server Manager 」および「Servervisor 」の入手を希望される方は、**当社担当営業まで御相談**下さい。
（2000 年 5 月末：Windows® 2000 Server 対応版リリース予定）

２．アレイコントローラカードに関する制限事項事項

SCSI アレイコントローラカード、およびIDE アレイコントローラカードは<未サポート>です。

３．無停電電源装置(UPS)に関する制限事項

無停電電源装置(UPS)を使用するにあたり、”Windows® 2000 Server”の<コントロールパネル>メニュー内の「無停電電源装置(UPS)」設定を使用する事はできません。
「無停電電源装置(UPS) 」の設定、およびスケジューリング運用については、Windows 2000 Server 対応の電源制御ソフト「PowerChute 」を必ず使用して下さい。
（Windows® 2000 Server 対応版のサポート開始時期については担当営業にお問い合わせ下さい）
そのため、Windows® 2000 Server 対応の電源制御ソフト「PowerChute」がサポートされるまでは、**<瞬電対策電源のみ>としての御利用**となります。

４．外付け FAX モデム装置(FMFX-511/411)に関する留意事項

インターネット等に接続中にスタンバイ/休止状態に移行した場合、回線が一旦切断されますので、復帰後に再接続が必要です。

第四部 Windows® 2000 Server タイプ使用時のサーバ本体添付ドキュメントへの補足事項

ここでは、Windows® 2000 Server を使用する場合の「取扱説明書」、「ﾊｰﾄﾞｳｪｱｾｯﾄｱｯﾌﾟｶﾞｲﾄﾞ」等サーバ本体添付ドキュメントへの補足事項について説明します。本書で説明されていない部分については、各ドキュメントの記述に従って下さい。

1．アレイコントローラカードに関する記述について

SCSI アレイコントローラカード、およびIDE アレイコントローラカードは未サポートです。
サーバ添付の各ドキュメントを参照するにあたり、全編を通じ各アレイコントローラカードに関する記述は読み飛ばして下さい。

2．「Intel LANDesk® Server Manager」および「Servervisor」の記述について

「Intel LANDesk® Server Manager（以下、LDSM と略)」および「Servervisor」は未サポートです。
サーバ添付の各ドキュメントを参照するにあたり、全編を通じ LDSM および Servervisor に関する記述は読み飛ばして下さい。

3．OS インストールに関する記述について

「Windows® 2000 Server」の OS インストールには以下の２通りの方法があります。
希望するインストール方法によって、参照するドキュメントが異なりますのでご注意下さい。

［ServerWizard を利用してインストールを行う場合］
別冊『GRANPOWER5000 シリーズ ソフトウェアガイド』(サーバ本体添付)を参照して下さい。

［マニュアルインストールを行う場合］
ドキュメント『ファーストステップガイド』(OS パッケージ添付)を参照して下さい。

4．内蔵／周辺オプション装置のサポートについて

「周辺装置に関するサポート状況」および**「装置増設時の制限・留意事項」**については、下記 URL 先の当社公開中ホームページにおいて確認できます。
システム構築後、周辺装置の増設を行う場合は**必ず当社ホームページを参照**し、最新のサポート状況および注意事項を確認して下さい。
（URL を参照できない場合は、担当営業へお問い合わせ下さい）

[当社ホームページ URL]
- GRANPOWER OPEN WORLD
  http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/granpower/gp5/index.html

第五部 Windows ®2000 Server タイプ使用時のメモリダンプの取得

ここでは、メモリダンプを取得するための Windows® 2000 Server の設定方法について説明します。
メモリダンプの設定をしておくと、Windows®2000 Server で STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。
保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析することができます。
特に大容量メモリ搭載時のメモリダンプファイルの設定には注意が必要です。メモリダンプ取得のための設定は、運用に使用するファイル（OS やアプリケーションなど）をインストールした後に行います。
以下に、設定方法について説明します。

1．メモリダンプファイルの種類

起動/回復ダイアログボックスの[デバッグ情報の書き込み]の設定で、ドロップダウンリストから以下の設定が選択できます。適切な設定を選択してください。
既にデフォルトで選択されている場合でも、ＯＳ に正しく認識させるために、再度、対象の設定を選択しなおしてください。

■最小メモリダンプ（64KB）
最小限の情報がメモリダンプファイルに記録されます。
致命的なエラーが発生するたびに、[最小ダンプ ディレクトリ] に指定したディレクトリに新しいファイルを作成します。

■カーネルメモリダンプ
カーネルメモリだけがメモリダンプファイルに記録されます。

■完全メモリダンプ
システムメモリのすべての内容がメモリダンプファイルに記録されます。
2GB を超えるメモリ搭載時は、本選択肢は表示されません。

2．メモリダンプを取得するための設定方法

以下の設定を変更するためには、administrator 権限で Windows® 2000 Server にログオンする必要があります。メモリダンプ取得のためには、ブートボリュームに決められたサイズ以上のページングファイルを作成する必要があります。
メモリダンプファイルの取得先は任意のボリュームで構いません。
メモリダンプの取得可能なページングファイルの設定を行うには、メモリダンプファイルの設定をした後にページングファイルの設定を行ってください。

■ページングファイルの設定場所
仮想メモリダイアログボックスで設定します。
＜起動方法＞
[コントロールパネル] → [システム] → [詳細]タブ] → [パフォーマンス オプション(P)…]
→ [仮想メモリ]の[変更(C)…]ボタンをクリックする。

■メモリダンプファイルの設定場所
起動/回復ダイアログボックスで設定します。
＜起動方法＞
[コントロールパネル] → [システム] → [詳細]タブ → [起動/回復(S)…]ボタンをクリック。

メモリダンプファイルの種類により必要になるページングファイルのサイズが異なります。

選択肢	必要なﾍﾟｰｼﾞﾝｸﾞﾌｧｲﾙｻｲｽﾞ	ﾒﾓﾘﾀﾞﾝﾌﾟﾌｧｲﾙに必要な空き容量
最小ﾒﾓﾘﾀﾞﾝﾌﾟ	2MB 以上	64KB
ｶｰﾈﾙﾒﾓﾘﾀﾞﾝﾌﾟ	搭載ﾒﾓﾘにより 50MB～800MB	搭載ﾒﾓﾘにより 50MB～800MB
完全ﾒﾓﾘﾀﾞﾝﾌﾟ	搭載ﾒﾓﾘ容量 +1MB 以上	搭載ﾒﾓﾘ容量

[ダンプファイル：]または[最小ダンプディレクトリ：]入力フィールドには、メモリダンプファイルを保存するファイル名またはディレクトリをフルパスで指定します。
カーネルメモリダンプまたは完全ダンプの場合、[既存ファイルに上書きする(O)]のチェックボックスをオンにすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

３．メモリダンプの取得に必要なブートボリュームサイズ

以下は、メモリダンプ取得のために最低限必要なブートボリュームサイズです。
ブートボリュームサイズを決定する際に参考にしてください。

ブートボリュームサイズ ＝ 標準のシステムファイルサイズ（800MB） ＋ 追加ソフトウェアサイズ
＋ ページングファイルサイズ ＋ メモリダンプファイルサイズ
→ <u>**このサイズ以上を確保する**</u>。

※但し、メモリダンプファイルは任意のボリュームに取得可能です。

４．メモリダンプが取得できないとき

メモリダンプファイルが作成されない場合には、以下の方法で対処します。

■正しい設定を行う

メモリダンプを取得できない場合、ダンプファイルの設定、ページングファイルの設定の順に設定を確認してください。
設定方法については、「２．メモリダンプを取得するための設定方法」を参照してください。

■ブートボリューム以外にメモリダンプを取得する

ブートボリュームにメモリダンプを取得している場合は、ブートボリューム以外にメモリダンプを取得するように設定を変更します。
設定方法については、「２．メモリダンプを取得するための設定方法」を参照してください。

■デバッグ情報の書き込みの種類を変更する

メモリダンプを取得できない場合、ボリュームサイズの空き容量の範囲内に収まるデバッグ情報の書き込みの種類を選択してください。

上記対処が出来ない場合、ハードディスクを増設する等の方法で対処します。

－　以上　－